

令和5年度 横浜カレッジ 自己評価表

1. 学校の教育目標

- (1)感性の向上
- (2)高度な技術力の習得
- (3)豊かな人間性の涵養
- (4)プレゼンテーション能力の育成

2. 令和5年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

項目	実施状況	評価
オンライン教材の工夫と活用の最大化で授業品質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度より導入したスタログ（LMS）の活用方法が成熟され、授業毎の確認テスト（小テスト）による理解度の促進や、反復学習熟度を高める検定対策に効果を発揮した。 ・授業教材（特にPowerPointによる説明資料）についても理解度を高める工夫がなされておりスキームが構築されつつある。 ・一方で、対面の方が学習効果の向上が見られる科目もあるため、授業形態についての見極めが肝要。 	○
作業の平準化、標準化、効率化、最大化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・上記LMSの活用により、検定試験の筆記対策についてはオンライン上での反復学習が可能となったことで、教員の対応時間の軽減に繋がり効率化が図れた。 ・Swipe Videoについては、卒業生協力のもとコンテンツを10以上増やす事ができ、美容師国家試験対策に活用することで教員の負担軽減が図れ、実技分野の合格率も97.4%という成果を出せた。 ・校務負担軽減のため、年間スケジュールの策定によるタスク集中時期の明確化、標準化について着手。 	○
教務部の組織的、機動的運営の構築、推進	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを軸に、効率的な学科運営を行う目的で昨年設置した学科別の業務グループについては、学校目標からブレイクダウンされたグループ目標が明確化され、組織的に業務遂行が行える体制となった。 ・後継者となる管理職の育成が課題となっており、組織的な仕組み作りが急務。 ・昨年課題に挙げていた校務分掌については、属人化しないよう見直しを図り業務負担の偏りを払拭。 	△

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は明確か	4 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されているか	4 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

ファッション・美容・ブライダルの各業界において時代の変化に即応でき、最新技術の習得に躊躇せず、活躍できる発想力豊かな人材の育成が課題。

② 今後の改善方策

本学園グループ姉妹校を横断したプロジェクト活動を通じて、学生が主体的に学び合える教育内容や環境の整備を進める。また、業界ニーズに見合った人材の輩出を図るため、教職員が積極的に業界との人脈作りを行うことで、インターンシップや産学連携の機会を創出する。

③ 特記事項

美容の多様化に対応し、施術者向けの検定として創設したメンズヘアメイク検定初級について、更に現場に即したイメージ別ヘアメイクの習得を目的として、上級検定に発展。卒業生からも自身の業務に活かせる内容であると評価を得た。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 3 2 1
・ 人事、給与に関する制度は整備されているか	4 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

Swipe Video を全学科で導入できるよう整備したが、学科の特性に合った活用法を見出し、コンテンツの質と量の充実、学生への動機付けが課題。

② 今後の改善方策

コンテンツ作成におけるフォローが必要な場面があるため、マニュアル等の整備を行っていく。また、授業だけでなくイベント等でも積極的に活用していく。

③ 特記事項

(3). 教育活動

a. ファッションライフデザイン学科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

コロナ後の業界は、消費者ニーズの二極化とファッションサイクルの変化が浮き彫りになり、サステナビリティ志向、多様化する顧客ニーズへの対応が求められている。マルチな接客やハンドクラフト技術を兼ね備えた人材育成と、業界のDX化に伴うデジタル技術向上の教育強化が課題である。

② 今後の改善方策

(株)TFL との 3D モデリング授業連携が終了し、次年度より授業を内製化する。アパレル企業や繊維商社と協力のもと、3D モデリングを活用した商品企画や産学連携での発表の場を設ける。また、インターンシップで実践力を養い、3D モデリストとしての就職内定へ発展させていく。

③ 特記事項

5年連続エントリーしている「第20回ビジネスプロデュースコンペティション」において、「グランプリ」、ならびに「プレゼン賞」を受賞。導入2年目において難関の3Dモデリスト検定2級に、学生1名と教員2名の合格者を輩出。※R5年9月、同検定2級の全国合格率は75.0%

b. ファッションビジネス科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

実店舗とECを融合させたオムニチャネルなど、絶えず進化するファッションビジネスの流れを深く理解し、その変化に対応できる実践力を養うことが求められる。このため、教育の質をさらに高め、将来のビジネスシーンで即戦力として活躍できるようにすることが重要な課題となっている

② 今後の改善方策

学生が企画するアップサイクルブランド、その商品製作、SNSの発信、ファッションショーの企画運営を、より主体的に実施する。またその中で組織での協調性や役割、コミュニケーション力をはじめ、自己アピールする力を養うことが必要。

③ 特記事項

R5年度も継続した期間限定ラフォーレ原宿「愛と狂気のマーケット」でのポップアップショップでは50点中18点を売り上げた。ロケーション・ターゲットの分析力、製作される商品の質の向上、プロモーション力の向上が結びついた成果である。

c. ブライダル科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

高校生活をコロナ禍で過ごした影響も有り、他者との直接(対面)のコミュニケーションに対して苦手意識をもつ学生が継続して多い。業界の特性として、協調性やコミュニケーション力は必須であるため、グループ・チームで取り組む作業を通して醸成していく事が課題。イベントや授業運営で解決していくには、教員のスキル向上も課題である。

② 今後の改善方策

目的や目標意識を向上させる仕組みづくりを構築し、教育内容をブラッシュアップしていくため、教員が学ぶことを忘れずに、新たな授業手法など積極的に取り入れていく。また、学生たちが成長実感を得るために、小さな成功体験を繰り返すことで大きな自信につなげ、困難を乗り越えることができるマインドを醸成し、卒業後に即戦力となれる人材育成をおこなう。

③ 特記事項

d. ビューティーコーディネート科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

多様細分化している業界に対応するため、柔軟性のある思考やコミュニケーション能力など、人間力のある人材育成が求められているため、業界動向を反映した新しい教育手法を学び、それらを積極的に授業へ取り入れることが出来る職員の育成、または人材の確保が課題。

② 今後の改善方策

優れた教員の育成・確保をするため、業界との連携を強化し、教職員研修等にも積極的に参加をすることで、業界動向を把握するとともに、オンライン接客術などを学ぶ機会を設ける。令和5年度生よりコース名を変更したエステティックウェルネスコースでは健康志向の高まりを受け、生活習慣、健康、運動に関する授業を展開し、連携講座を継続する。

③ 特記事項

()

e. ビューティースタylist科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

(実務に即した技術習得のため、産学連携による実践的な授業の実施に努めてきたが、今後は現場力向上のため、インターンシップの実施に向け、実習先の開拓が必要である。SwipeVideo やスタログの活用を習慣化し、より効果的に学習効率を高めていくことが課題。)

② 今後の改善方策

(卒業生オーナーサロンを中心に、インターン生受け入れを依頼。夏季休暇中や通常授業期間外でのインターン実施を検討している。
SwipeVideo のコンテンツ増加と活用、検定対策の動画教材作成など資料の改良を進めていく。)

③ 特記事項

()

(4). 教育環境

a. ファッションライフデザイン学科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

校内リニューアルに伴い、目的に応じた教室内の環境を整備改善していく。
インターンシップ先企業との連携構築と、3Dモデリング教育と連動したインターンシップ受け入れ先の開拓が急務。

② 今後の改善方策

R5年度も、本校隣接ホテルユニフォームデザイン提案や地元商業施設からの新規連携を複数件実施。
R6年度は、3Dモデリングを活用した産学連携とインターンシップについて具体的に取り組み、就職につながる実践力を養成する。

③ 特記事項

本校隣接ホテルが開業25周年記念を迎え、ユニフォームリニューアルの案件があり、本校学生が1年間に及ぶデザイン企画プロジェクトに参画。 ※R6年4月より新ユニフォーム着用開始。
高島屋横浜店×アーリーマウンテン(レザーメーカー)×在校生によるレザー商品開発が、3年目を迎えR6年9月スタートで計画中。

b. ファッションビジネス科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 (2) 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

高校在学時をコロナ禍で過ごした学生が志望する職種に変化がでてきた。アパレル業界での販売接客だけでなく、アパレルに関連する衣食住などにも視野を広げ、インターンシップ先の開拓を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

アパレル企業主催の学生ロールプレイングコンテストに参加。初挑戦で本選には進めなかったが、次回は本選に出られるよう学生のモチベーション向上、コンテスト指導に注力する。スタイリスト希望者には、引き続き、非常勤講師(現役スタイリスト)や卒業生ネットワークによるインターンシップへの参加を促し就職につなげていく。また学内のファッションショーなどで実践を積み、インターンシップへのスムーズな参加を図る。

③ 特記事項

[]

c. ブライダル科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 (2) 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1

① 課題

[婚礼プロジェクト時の挙式や披露宴などの実習、演習を行うスペースが不足している。]

② 今後の改善方策

[今後も継続して本学姉妹校の施設や設備を活用していく。]

③ 特記事項

[]

d. ビューティーコーディネーター科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	(4) 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

[海外研修については、コロナ禍による影響も残るため令和5年度は研修の実施を見送っている。]

② 今後の改善方策

[海外研修は学生からの希望も高まりつつあるので、早期に計画を立て海外研修の実施に向けて準備を進めている。現地の情勢を把握し、安心安全な研修実施を計画していく。]

③ 特記事項

[]

e. ビューティースタylist科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

オンラインや対面授業内で、PCを使用した資料作成や授業資料の閲覧も多いため、Wi-Fi環境の改善が必要である。インターンシップの体系的な実施に向けて実習先の確保が課題。

② 今後の改善方策

Wi-Fiなどのインフラ整備において、ハード面の見直しを続けていく。
インターンシップ受入れ先の開拓を確実に遂行し、次年度は希望者全員が参加できるよう制度を整える。

③ 特記事項

換気機能や空調設備が必要な教室についてはサーキュレーター等の設置を予定。
モニターを増設とプロジェクターの入れ替えを実施。

(5). 学修成果

a. ファッションライフデザイン学科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 (2) 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

業界全体の求人数は増加傾向。販売職・総合職への就職内定を獲得し、就職率100%を達成。
技術職の採用状況も新規採用枠が拡大しており、従来通りの実技試験課題などの採用試験対策の強化が重要。DXに伴う新職種、3Dデジタルオペレーション技術者採用も視野に、受け入れ先の新規開拓が急務。

② 今後の改善方策

即戦力として活躍できる人材の育成を念頭に、業界理解や入社後のイメージができるインターンシップ先を開拓し、職種に求められる知識や技術の理解と人間力の向上を図る。また、1,2年生においては、業界での可能性や憧れが学びの場で得られるような、カリキュラムの構築と教員及び学生間相互のコミュニケーションを強化し、就職意欲を向上させる体制を整備する。

③ 特記事項

[]

b. ファッションビジネス科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 3 (2) 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 3 (2) 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 (2) 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

進路変更による退学者増加がみられた。職種をアパレル業界に限定せず、更に幅を広げることで、様々な進路の可能性を確保し、退学防止に繋げていく必要がある。求人は増加傾向にあるものの、自由な働き方を望む学生が増加傾向にあるため、この層への対応も課題である。

② 今後の改善方策

学生の特性を把握するため、早期面談の実施とアパレル業界へのアルバイトの斡旋、インターンシップへの誘導を行う。現場を体験させることで職業理解を深め、将来を具体的にイメージさせることにより退学者低減を狙う。資格取得率の向上にむけ、オンラインで実施していた対象授業をR6年度より対面で実施し合格率アップを目指す。

③ 特記事項

[]

c. ブライダル科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 (2) 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

近年では人間関係の構築に対して苦手意識がある学生が多くなってきているため、今後はこれらを改善する仕組みづくりを構築する必要がある。

② 今後の改善方策

退学者を低減させるために対人コミュニケーション能力を向上させる対策を進める。
また学生同士が良好な関係を築けるよう、教員間の情報共有の徹底を行い複数の教員で対応することで早期に退学に繋がる事例を共有し防止できるように務める。

③ 特記事項

R5 年度サービス接遇実務検定 団体優秀賞 受賞
サービス接遇検定 1 級 10 名合格(2 年生希望受験) (合格率 100%)
ブライダルコーディネイト検定(国家検定) 3 級 61 名合格 (合格率 87.5%)
昨年度に引き続き 2 級 2 名合格。(合格率 100%)

d. ビューティーコーディネイト科

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

退学率においては昨年度に引き続き厳しい状況が続いた。進路変更や学習意欲低下などの理由で退学に至る学生の対応が課題となった。
また卒業後のキャリア形成に必要な教育を実施するために工夫が必要となる。

② 今後の改善方策

退学率を低減させるために計画的にかつ優先順位を見極めて、早期に面談を実施する。面談内容については、他教員への情報共有を密におこなうことでサポート体制を整える。また、学生が楽しく主体的に学べるよう、授業内容の見直しを図り、卒業生によるトークセッションや就職説明会を実施し、将来像を具体的にイメージし、働くことに夢を持ちやすい仕掛けづくりから退学抑止に繋げる。

③ 特記事項

e. ビューティースタylist科

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 3 (2) 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 3 (2) 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 (2) 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1

① 課題

美容師国家試験合格率の向上と退学率の低下が課題。国家試験受験までの2年間をしっかりとイメージできる仕組みや、学生の就業意識やモチベーションをアップしていけるような取り組みが必須である。

② 今後の改善方策

カットやカラーリングなど実践的な技術の授業を早期に実施、キャリアプランセミナーなどを通して将来をイメージできるようなカリキュラムの構築。2年間のロードマップを活用し受験までの進捗管理をしていく。

③ 特記事項

昨年実施したメンズヘアメイク検定初級に続き、より実践的で実務に即した技術が身に付くよう上級試験を創出し、受験希望者対象に実施した。

(6). 学生支援

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	(4) 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	(4) 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 (3) 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	(4) 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1

① 課題

多様化する入学者に対し、多目的トイレ・男女共同トイレの設備が不足している。一方で運用に際し、社会的な問題点も考慮し検討を行う必要がある。
卒業生への支援体制として、就職支援制度(卒業後5年間)が設けられているが利用者が少ない。

② 今後の改善方策

設備については長期的視点で検討を進める。
卒業生への支援体制については、周知方法を検討しきめ細やかなフォローを継続できるようにする。

③ 特記事項

(7). 学生の受入れ募集

評価項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

オンラインと対面を併用し、進学に必要な情報提供ができた。コロナ5類移行後は、対面イベントを増加し、設備見学や在校生との交流などオンラインでは提供できなかった情報についても伝える事ができた。

② 今後の改善方策

引き続き、感染防止について配慮しながら、進学に必要な情報提供を Web や SNS、対面やオンラインでのオープンキャンパスなどを通じて発信していく。

③ 特記事項

(8). 財務

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3 準備中・整備中:2、未着手・未整備:1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

財務状況は、安定しており、継続的な学校運営には問題がない状況である。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 ③ 2 1
・ 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

平成 25 年度より、自己評価を実施し、学校関係者評価委員会等で意見を聴取し改善には努めているが、校舎・設備・環境に関わる課題や、学生の経済支援については制約もあり、年度内や本校のみの施策では解決しにくいものがある。

② 今後の改善方策

校舎の環境整備については、令和 2 年度より、3 か年計画で充実を図っており、令和5年度の整備完了を以て一旦完了となった。より良い学習環境整備等について引き続き検討を行う。

③ 特記事項

自己評価、学校関係者評価委員会の議事録は、ホームページ上で公開している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・ 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

① 課題

昨年引き続き、地元プロリーグや地域イベントの活動に参加した。なお、令和4年度新たに立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが引き続き課題。

② 今後の改善方策

サークル活動を定例的・継続的に取り組めるよう、計画的に地域イベント等を組み込みことで、社会貢献への視野を広げ、ボランティアへの積極的な参加を促す。

③ 特記事項

乳がんの早期発見・早期治療啓発イベントにてサコッシュ作りのワークショップを開催。

以 上